

みつくら

令和 4年11月15日 第374号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

板垣さんが自叙伝を出版

板垣弘清さんは、9月に自叙伝「過ぎ去りし断想」を出版した。副題として「助役・理事長日記 ドキュメント・回想日記」とあった。この本は第10章にまとめられ、その内容は板垣さんのこれまでの業績や追憶などが収められている。本の体裁はA5判(148mm×210mm)で、実に530ページに及ぶ大作で220部を印刷し、図書館や友人に配布した。(非売品)

板垣さんは芸術写真家だけあって、要所要所には総てカラー写真を添えての内容なので、読まれた方は感動したと思われる。特に巻末の第10章には、自叙伝の集約を思わせる写真が満載されていて、それを見ただけでも板垣さんの人柄が表されていた。板垣さんに「出版おめでとうございます」とお伝えしたい。

珍しくニホンカモシカが出没

決して里には下りて来ないと思っていたニホンカモシカが10月1日午前7時25分に且乃花家の近くに現れた。菅原洋二さんが、屋根の上で落ち葉をブロワーで吹き落としていたところ、カモシカが板垣匡俊さん宅の南側の田んぼを通過して且乃花家に近寄り、気付いた飼犬が大きな声で吠えたのにビックリして、今度はやまなし園の方に逃げに行ったという。犬より早く見つけた菅原洋二さんは「仔牛ぐらいの大きな体で、角は短かった」ということから雌だったのでないかと思われる。ニホンジカ(茶色の毛)は、7区でも良く見かけるが、特別天然記念物でもあるニホンカモシカ(鼠色の毛)は、滅多に里には下りず、葛丸湖周辺では良く見かけるものの小屋場周辺で目撃されたのは珍しい。

重之助家の屋敷杉にも落雷

菅原広子さんから10月25日に「家の屋敷の杉にも落雷がありました」との報に、早速確認に行った。その杉の木は、重之助家の西側にあって樹齢70年以上と思われる大きな杉で木のてっぺんから真っ二つに地面まで裂けており、今

まで見たことも無い姿をしていた。菅原さんは「いつ落雷したのかは分からない」と言うので、最近の落雷注意報を調査すると、花巻市では7月5日に発令されたのが最後であった。そこで、同日に尾平の熊谷政男さん所有の杉が落雷に遭ったのを思い出し、両方の裂け目や変色具合を比べてみたなら、全くそっくりだった。4ヶ月も経過しているが、裂け目はどちらも同じように黄変色しているのと同じ日に落雷したと思われた。この落雷の猛威を見て「雷雨の時に大木の下は危険」と言われる意味が良く分かった。

「賢治さんへの手紙」を代読で披露

石鳥谷賢治の会(熊谷善志会長、会員55名)主催の第27回賢治葛丸祭は、10月10日、生憎の雨のために大瀬川構造改善センターで34名が参加して行われた。熊谷会長は「一向に収まらない第7波のコロナ禍ですが、今回も来賓を招かずに規模を縮小して開催をせざるを得なかった賢治葛丸祭に、皆さんからご協力をいただきましてありがとうございます。賢治葛丸祭は当会の活動の中でも最重要に位置づけております。今後ともよろしく申し上げます」と挨拶した。その後、八日市鹿踊保存会4人による「鹿踊り」が披露され、続いて7人の児童生徒から寄せられた「賢治さんへの手紙」では、本人出席はなかったが会場の参加者が代読で披露した。手紙を書いた方と代読者は次のとおり。山口莉緒さん(石鳥谷小学校6年)は菅原富男さんが、松田悠那さん(八幡小学校6年)は鎌田アヤさんが、筑後琴子さん(八幡小学校6年)は高橋久さんが、佐々木瑠和さん(八幡小学校6年)は板垣福子さんが、晴山心さんは佐藤現さんが、千田葵さん(石鳥谷中学校2年)は熊谷敏江さんが、中村亜梨栖さん(花北青雲高校1年)は小森田郁也さんが披露した。続くプログラムは「歌の広場」でエコーくずまる(熊谷幸子代表)8人の皆さんから3曲が披露され、4曲目は参加者全員で「精神歌斉唱」となった。

賢治の会会員の菅原茂さんは最後の所感で「賢治さんへの手紙は、生徒さんそれぞれに童話を通して感じた事を上手にまとめており感心しました」と述べた。

法面の刈り払いを実施

下大瀬川美土里の会(高橋義晃代表)では、ふれあい運動公園南側好地堰法面の刈り払いを9区地区民に協力依頼をし、10月22日に20名が参加して行った。この場所は、4回目の草刈りの際に平場部分を刈り払いしていたが、法面はそのままだったので来年を考慮して実施した。

7区で鳥獣被害対策研修会を開催

去る10月30日7区農家組合(菅原京子組合長)では、花巻市農林部の藤原大有害鳥獣対策アドバイザーを講師に「鳥獣被害対策について」の研修会を行った。当地区は、熊被害よりもイノシシ被害が多くなっているため、イノシシ被害対策を主に研修した。

藤原さんからは「まずは、隠れ場所を少なくするためにも茂みを無くし、電気柵の共同設置と適切な管理を行い、イノシシが来ないようにしてほしい。そして、狩猟免許取得とわな設置講習会を行なって頭数を減らす事を考えて頂きたい。また、花巻市としても被害状況を踏まえ今後も対策についての協議を進めたい」と話していた。

男子バレーチーム6連覇達成!

去る10月23日石鳥谷町体育館で、第49回石鳥谷9人制バレーボール大会が開催された。開会式の優勝杯返還では大瀬川チームの板垣拓海さん、選手宣誓は菅原崇将さんが務めた。男子の参加チームは4チームで、大瀬川は初戦に好地チームに勝ち、決勝戦では新堀チームに勝利して6連覇を達成した。対好地戦では、リードを許す展開から柳原紘樹さんのサーブ・レシーブで流れが変わり勝利したので、今年のMVPは紘樹さんと思われる。大会に向け練習を積み重ねて本番に挑み、6連覇(今回で11回目の優勝)を達成。来年も優勝を目指すことを誓った。出場選手は以下の通り
 菅原崇将・板垣雄一・板垣春介・板垣圭介・板垣幸規
 板垣伸吾・柳原紘樹・藤原誠・板垣拓海・菅原 茂
 皆さん御苦労さまでした。

大瀬川ゆかりの吉見正信さんが逝去

宮澤賢治と大瀬川との関わりを広く紹介した吉見正信さん(盛岡市安倍館町)は10月11日に93歳で逝去され、15日の告別式には大瀬川から板垣寛さん、熊谷善志さん、菅原得之さんの3人が参列し在りし日の吉見先生を偲んだ。吉見正信さんは、石鳥谷町の中でも特に大瀬川と宮澤賢治について最初に研究した賢治研究家で、賢治作品をとおして大瀬川を広く紹介した。大瀬川に関わりがある作品には、野宿の夜を詠った短歌「葛丸」、ラクシャン4兄弟の葛丸山系を描いた「檜ノ木大学士の野宿」、童話「やまなし」、大瀬川の風景を著した詩「夏」、短歌「北の又」、大瀬川の「大噴鉦山」を詠った「夜はあけて」と「夜をこめて」など多くの作品を紹介している。作品以外では「板垣米穀店」や「笹小屋」、「好地石」や「大瀬川の肥料設計」、「大瀬川の土性調査」など吉見先生の功績は計り知れない。吉見正信さんは大瀬川の現地を7回も訪れ、それとは別に大瀬川公民館や大瀬川振興センターで3回にわたって「賢治講演会」を開いている。吉見先生の経歴は東京都杉並区出身で、大東文化学院(現大東文化大学)中国文学科を卒業し、雑誌記者を経て昭和26年から石鳥谷町に移住し、物見山住宅に住んだ。花巻北高校教諭、岩手大学非常勤講師、富士大学講師の傍ら宮澤賢治学会イーハトーブセンター設立発起人及び理事、東方学会会員、日本文学協会会員などを担われ、近年は宮澤賢治賞や岩手日報文化賞受賞など大瀬川と深いゆかりのある著名な方であった。

みつくら

令和 4年11月15日 第374号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

市民芸術祭石鳥谷会場に大瀬川からも出展

花巻市民芸術祭石鳥谷会場に、今年も大瀬川の方々の作品が展示された。期間は10月15日から20日までで、石鳥谷生涯学習会館が会場であった。

書道では熊谷美奈子さんの「兩岸揚花風・・」と、熊谷静香さんの「王翰詩」が展示されていた。随筆は菅原得之さん、手芸には熊谷満子さんと板垣あきさんの作品が展示された。小学校の図画は畠山拓磨さん（下西海地家）、同じく小学校の習字では板垣龍さん（たぼこ屋）と畠山ひよ里さん（六盃家）の二人の作品が展示されていた。中学校のデザインには畠山真莉華さん（前畑家）、菅原瑠生さん（新山家）、畠山ひなたさん（六盃家）の3人の作品があった。

3年振りに神輿渡御の山祇神社

大瀬川の村社である山祇神社の例大祭は9月12日、3年振りに神輿渡御も行われた。その神輿渡御では、安全協会大瀬川分会から車両6台の協力を得て、山祇神社から天満宮まで渡御し、天満宮で昼食と休憩をとってから午後再び山祇神社まで渡御したもの。

続く例大祭は午後3時から行われ、直町宮司によって修祓、祭主一拝、献饌、祝詞奏上、玉串奉奠、撤饌の順に執り行われた。今年の例大祭もコロナ禍とあって来賓は招かず、総代以上の役員のみ23名が参列し、直会も規模縮小のため会食を伴わない形式とした。

表彰 (敬称略)

花巻市中学校陸上競技大会	
1年女子400mリレー	2位 畠山真莉華さん
3年女子200m	4位 西館柚葉さん
岩手県中学校学年別水泳大会	
2年男子100m自由形	2位 菅原瑠生さん。
2年女子50m自由形	1位 菅原瑠香さん

黒森神社も役員のみで例大祭

黒森神社の例大祭は9月17日であるが、近年は休日に行っており、今年も9月18日の日曜日に行われた。

例大祭は、午後3時から直町清均宮司のもとで執り行われたが、昨年同様コロナ禍のために来賓や氏子は招かず、直会も今風に表現すればテイクアウト（持ち帰り）の形をとった。

尚、祭当日の朝は、役員ほか8区4班、9区1班の氏子など20名ほどで黒森神社の清掃を実施している。

秋の花壇整備

8区自治公民館（菅原洋二館長）では、11月6日に1班と4班の27名が参加して6月に植えた花壇の花を撤去した。霜の日も多くなりベコニアも枯れたため昨年よりも早い片付け作業となった。手際よく30分ほどで終了し、最後に菅原館長から「ご協力ありがとうございます。コロナ禍で公民館事業が思うように進まず申し訳ない」と挨拶があった。

秋の空き缶回収が行われる

9区自治公民館（熊谷武忠館長）では、年2回行っている空き缶回収を11月6日行った。これと同時に公民館周りに植えた花々も公民館役員で撤去した。

例年であれば、この頃には親睦事業である「収穫感謝祭（庭払い）」が行われていたが、今年もコロナ禍の終息が見えず、またしても中止が決定している。

今年の一斉草刈り日当が支払われる

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長）は11月6日に大瀬川振興センターで6月1日から7月31日までの行った一斉草刈りと大排水路の草刈りの日当を支払った。支払い人数は延べ1,318人で総額1,070万円が支払われた。

来年の干支を作る

大瀬川手芸クラブでは来年の干支の「兎」を11月2日に鎌田友律子さんを講師に13名が参加して製作した。

この干支作りは今回で12回目となり、初回から参加した方は全干支が揃ったことになる。

作品は、11月12・13日開催の大瀬川地区文化祭に展示されている。

今年も銀杏が綺麗にライトアップ

今年で5年目となった銀杏のライトアップが11月1日から始まった。昨年はギンナンが不作であったが、今年も2年ぶりに多く実を付け、葉の色も鮮やかでとても綺麗にライトアップされている。この銀杏は、大瀬川小学校が昭和8年に火事で焼失した際、当時の牛崎校長が子供達を元気づけようと昭和9年3月、卒業生の記念樹として植えたものと聞く。

照明は1,000ワット相当の明るさがあるLEDを5機設置して17時から21時まで点灯している。

訃報

○兼松家の菅原靖夫さんは10月20日に81歳で亡くなりました。菅原さんは東京都台東区浅草の出身で、3歳の時に父の大工仕事の関係で一家は千葉市に1ヶ月滞在していました。浅草に帰る予定だった昭和20年3月10日、東京は大空襲で10万人が死亡する大惨事でしたが、一家は運良く被災を免れました。東京が壊滅した報に接し、数日後自宅に戻って見ると、そこは焼け跡が一面に広がって、見るも無惨な姿であった。焼け跡にはただ一つ、竈に焚いていたご飯一釜が煮え終わった状態であるだけだった。そのご飯で命を繋いだと後に父から聞いたそうです。一家は3ヶ月後の昭和20年6月に父の実家（札立場家）を頼りに大瀬川に疎開しています。菅原さんは当時の記憶を「叔父に背負われて、石鳥谷駅から大瀬川に来る時のことを臍気（おぼろげ）ながら覚えていると話しておられました。

菅原さんは、農協職員を定年で退職してからは多くの役職を担い地区に貢献された方でした。特に市老連石鳥谷支部の事務局長として実質的な運営に10数年携わったあと、大瀬川中央長寿会長も担われ、他にも農業共済組合共催部長や第8区自治公民館長、第8区農家組合長などでも御世話になりました。得意な書道で、多くの賞状文を書いて下さいました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○清五郎家の菅原シフさんは、10月30日に91歳で亡くなりました。菅原さんは石鳥谷町松林寺の出身（現在は好地上口に移転し小田嶋設備工業を経営）で、昭和23年にご主人と結婚されました。

ご主人の菅原章三さんは、阿部電器に勤務され、高度経済成長の始まりであった頃に、「三種の神器」と詠われたカラーテレビや洗濯機、冷蔵庫などの販売で数多くのメーカーから表彰を受けた方でしたが4年前に亡くなっておられます。

菅原さんで思い出すのは、石鳥谷メリヤスに最初に採用された社員で、創業前の昭和40年10月に菅原芳男さん（中ノ家）、照井盛勝さん（鉛家）、照井キヌさん（鉛家）、細川マサさん（荒屋竈家）、似内博子さん（惣次郎家）と共に6人で東京都墨田区の島田縫製に5ヶ月間実習生として派遣されたことでした。創業と共にその技量が認められ、縫製の班長として活躍されました。石鳥谷メリヤスが閉鎖してからはジャパンエンバに転職し、そこでもミンクの毛皮の最終工程である型紙での縫製部門で働かれました。

喪主挨拶で菅原章雄さんは「前日まで元気でいしましたが急に亡くなりました。苦しむこともなかった事がせめてもの慰めです」と話していました。近所の方々にも穏やかな語り口で親しまれました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

※来月号は、3年ぶりに行われた大瀬川地区文化祭舞台発表などを記載予定です。